

革新事業創造戦略(案)に対する県民意見の概要及び県の考え方

番号	県民意見の概要	県の考え方
1	高齢者であっても、やる気のある農家については、しっかりと営農できるようなプロジェクトを進めてもらいたい。	重点政策分野の一つに、担い手の減少や高齢化が課題となっている「農林水産業」を設定しています。こうした課題に迅速に対応していくため、今後も産学行政による新しいイノベーションを創出し、社会実装に向けた取組を推進していきます。
2	重点分野の一つに文化芸術が設定され、「経済政策の新機軸である文化芸術と経済の好循環を推進」との方向性が示されている。昨今、消費者は、モノを購入する際、性能や価格だけでなく、デザイン性の高さも重視している。そこで、愛知県のモノづくり産業の競争力強化に、文化芸術を生かすようなプロジェクトを期待したい。	本県の強みの1つである製造業において、文化芸術を活かしていくことを革新事業の創造に向けた取組の方向性として位置付けることとし、技術・研究開発だけでなく、デザインやストーリー性の視点を大胆に取り入れることで、国際競争力の強化につなげる必要がある旨を記載します。
3	先進事例の報告会や、マッチングイベントの開催によるネットワーキングを図る機会の創出も大切であるが、それだけでなく、マッチングを直接的にバックアップするような取組も実施してもらいたい。	12月26日から革新事業創造提案プラットフォーム(愛称:A-idea(アイディア))の本格運用を開始し、システム上におけるオンラインマッチング機能を実装しました。こうした機能を始め、提案・登録されたアイディア、技術・研究シーズ、支援施策のマッチングをしっかりとバックアップできるよう努めてまいります。
4	提出された全てのアイディアを有識者で構成される革新事業創造戦略会議において検討するのは、時間やコストの観点から合理的ではないので、検討すべきアイディアを事前に選別する必要があると考える。一方で、恣意的な審査が行われることのないよう、透明・公平性の高い審査を求める。	要件を満たさない提案は、優れた提案の審査から機械的に除外されます。また、戦略会議での審査にかかる時間を削減する観点から、革新性、必要性、共創性、実現性及びインパクトの5つの視点からなる基本審査項目によって定量的な審査を行い、戦略会議で審査する革新事業の候補を抽出します。戦略会議では、基本審査項目による採点に加え、提案に関係する分野の専門家の知見等を踏まえて、革新事業にふさわしいか、プロジェクトを進めるべきか等を総合的に評価し、採点を行います。
5	優れた提案の実現に向け、ワーキンググループを組成して検討を行う際、行政機関が関わることによって、かえってスピード感を削ぐことのないよう注意されたい。また、プロジェクト化できない場合や革新性を失った場合等は、ワーキンググループを解散する判断も必要である。	ワーキンググループでの検討は、原則として、採択案件となった時点を起点として、一定の期間内に結論を導くこととし、スピード感を持って検討に当たります。また、検討の結果、プロジェクト化が見込めないとの結論が出た場合等には、ワーキンググループを解散します。
6	提出したアイディアに対し、金銭面での援助等は得られるのか。アイディアを提出したにも関わらず、それきりになってしまう事のないようしっかりフォローしてほしい。	本戦略は、社会課題の解決や地域の活性化を目指すプロジェクトを、民間提案を起点として組成する枠組みです。民間提案を起点とする理由は、行政機関内部からの発想とは異なるアイディアを期待するからです。こうした理由から、提案については、提案者自身がその実現に深く関与することや、将来的に公費のみに依らない高い経済自立性を求めることとしています。しかしながら、プロジェクトの初期段階においては、愛知県の融資制度や各種補助金による支援、国の研究プロジェクトを活用した外部資金を案内するなど、しっかりとフォローしていけるよう努めてまいります。

番号	県民意見の概要	県の考え方
7	豊田市内における愛知環状鉄道沿線の再開発や新路線の敷設、高度外国人材の受け入れ、名古屋証券取引所の体制強化による海外からの投資呼び込み、洋上における農地開拓、テーマパークの誘致等による観光客を増やす取組などを実施してほしい。	産学官金の多様な主体から革新事業創造に向けた提案を受け付けるため、Web上に革新事業創造提案プラットフォーム(愛称:A-idea(アイディア))を構築・運営しています。多くの方からの提案をお待ちしています。
8	現地の言葉が堪能な人材をアメリカやイスラエル、フランス、シンガポール等に常駐させ、世界の最新情報を入手するなどして、情報にコストをかける事が重要である。そこから、海外スタートアップのSTATION Aiへの誘致や県内スタートアップの海外進出に繋げるなどして、愛知県のグローバルイノベーション都市への飛躍を図るべきである。	本戦略を策定するにあたり、国内外の先進事例を調査しており、調査結果については、先進事例集として別途取りまとめました。また、「Aichi-Startup戦略」に基づき、海外のスタートアップが集積する国・地域において、スタートアップ支援機関や教育機関等との連携を図るとともに、これら国・地域のエコシステムや有望企業の調査を通じて、海外スタートアップを招聘し、県内モノづくり企業等とのマッチングを図っていきます。こうした取組を通じて、グローバルイノベーション都市への飛躍を目指してまいります。
9	日本全国のゆるキャラによるイベントを開催してほしい。豊田市にテーマパークや道の駅、ひまわりの迷路を造ってほしい。	産学官金の多様な主体から革新事業創造に向けた提案を受け付けるため、Web上に革新事業創造提案プラットフォーム(愛称:A-idea(アイディア))を構築・運営しています。多くの方からの提案をお待ちしています。
10	どのような理由でプロジェクトが立ち上がり、私たちの暮らしにどのように役立つのか、分かりやすく広報してほしい。	プロジェクトが立ち上がった際には、適宜記者発表を行い、県民の皆様に事業の意義や内容などを分かりやすくお伝えできるよう努めてまいります。